

LPO

レッスン プラス ワン

Nov, 2003

56

ホームページ “LPO” CLUB

URL: <http://www.musenet.co.jp/lpo>

LPO編集室：〒174-0063 東京都板橋区前野町3-43-7 楽譜専門卸 佛松沢書店内 TEL：03-5970-5917



全音楽譜出版社

ブルクミュラー・ファンタジー

みやもと みちえ
宮本 満栄

「連弾とソロ」(宮本満栄 編曲・解説 / 本体価格 1300円)

ポップスの世界では、あるアーティストのオリジナル作品を別のアーティストがリズムやアレンジを変えて歌ったり演奏したりすることや、“Cover Version”、略して“カヴァー”といいますが、この曲集はまさしくその名のとおり、ブルクミュラーの“カヴァー”です。

子どもたちの初級用練習曲集として、いまだにその確固たる地位をゆるぎないものとしている「ブルクミュラー25の練習曲」の中の10曲を、大胆にもラグタイムやカントリーにしてみました。ですから「クラシック以外聴く耳持たぬ!」とおっしゃる方からは「不届き者!」とお叱りを受けそうですが、「なんでもアリ」のこの時代、ちよつと毛色の変ったブルクミュラーがあってもいいのではないかなあ、と思ってアレンジしてみました。

……と言いますのも、私が子どもの頃は「アラベスク」や「乗馬」は憧れの曲で、バイエルを習っている子どもたちはまず「アラベスク」を目標にして頑張ったものです。ところが時代が進むにつれて子どもたちを取り巻く音楽環境は大きく変化していき、ところかまわずダンスミュージックが氾濫している日常を過ごしている子どもたちにとって、ブルクミュラーはすでに「非日常の音楽」、「古い時代の退屈な音楽」としか感じられなくなりました。まして大人顔負けのスケジュールを毎日こなしている現代の子どもたちは、興味のあるものには飛びつきますが、おもしろくないものには堂々と「NO!」と言う、恐れを知らぬ根性の持ち主たちばかり。たった2ページの曲さえエンエンと仕上がらぬ状況が続く、それでもここが我慢のしどころ、と頭に血が上るのを抑えつつレッスンを続けていくうちに、ある日突然「もうピアノやめます」などと言ってくるのですから、「もっやつてられない! エーイそれならあなたが弾きたいと思うようなブルクミュラーにしてあげようじゃないの!」と思って作ったのが、この「ブルクミュラー・ファンタジー」です。

ポップスは何と言ってもリズムが命。したがって、どの曲もリ

ズムを楽しみながら演奏できるようにしています。また全曲を連弾とソロとにアレンジし、どちらを弾いても同じ雰囲気味わえるようにしていますので、生徒さんのレベルに応じて連弾かソロかを選んで使っていただければと思います。最初に連弾で練習してリズムに慣れてからソロを弾く、というのにも有効な方法だと思います。

音楽の楽しさはいろいろなところにあると思いますが、その中のひとつに「意外性」があります。カヴァーの楽しさはその意外性にあると思います。「えっ? ああ曲がこんなになっちゃったの?」というのは、まさしく「音楽の魔法」に触れた瞬間です。

「リズム」はその魔法をかけるための魔法の杖です。リズムが変わるとこんなにも曲の雰囲気が変わってしまう、ということ子どもたちが実感として感じることは、先々音楽に興味を持ち続ける大きな原動力になると思います。

「音楽は自由なものだ」と子どもたちが感じるのが大切だと思っております。この中の曲を弾いて発表会でみんなをあっと驚かせるもよし、「子どもの頃にブルクミュラーをやりました」という大人の生徒さんに「21世紀バージョンです」と渡すもよし。とにかく硬いことは抜きにして、遊び心いっぱい使っていたら幸いです。

プロフィール



北九州大学文学部国文学科卒。フリーのレスナーとして初心者からプロまでの指導にあたる傍ら、ジャズピアニストとしても地元を中心に活動中。また作曲も手がけ、'93年にオリジナル組曲「NAASKA」を、'03年に「NAASKA」シリーズ第一作目「A Breath of Wind」を自主制作でリリース。
現在、公開講座「生徒一人一人のための楽譜

選び」講師として、全国各地で講演中。
著書
「ブルクミュラー・ファンタジー」(全音)「ポピュラー・ピアノ 8小節の練習曲集(リズム編)改訂版」(ドレミ)



モットーは、「自分自身の指で考えよう！」

ピアノを弾く身体

「魅力的な演奏」と身体との絡み合いとは？

今春出版された「ピアノを弾く身体」(春秋社)刊の300円は、演奏する「身体を軸にピアノを弾くことの本質に迫った」一冊。「魅力的な演奏」は「どうすれば生まれるのか、ピアノを弾く身体は、どこにあるべきなのか……？」本書の監修を手がけられた岡田暁生先生にお聞きしました！

「最初から表現」だ！

「この本はどういったコンセプトで書かれているのですか？」

まず最初に申し上げておきたいのは、僕らはこの本をピアノ演奏家としての立場からではなく、徹頭徹尾「聴き手」の側から書かせていただいたということです。「聴き手」とは、愛好家の立場であり、批評家でもあり、研究者でもある。その立場から演奏家に対しての「もつとこんな音楽を聴かせてほしい」というリクエストを著したいと思いました。これまであまりにこういう問題について音楽を受け取る側が発言をしてくる機会が少なかった気が僕にはしてました。

「聴かせてほしい」音楽とは、例えば？

最近こういうお話をする時に、聴き比べていただいているCDがあるんです。セロニアス・モンクという、ジャズ・ファンならモンクにはまらなかつた人はいないというくらい非常に特徴的な弾き方をするジャズピアニストのナンバーで、ひとつはクラシックのピアニストが「楽譜通りに」「正しく」弾いたもの、そしてもうひとつはモンク自身によるもの、それを聴き比べてもらって反応を見るのは楽しいんですね。鍵盤をパンパン叩くようなモンクの身振り性はやはり強烈で、ある大学の授業で学生

にこれを聴かせたところ、途端に大爆笑でした。それは僕は健全な反応だと思えます。ところが、あるピアノの先生の集まりで「どちらが魅力的だと思えますか」と尋ねた時に、皆さんモンクに手を挙げなかつたんですね。これは深刻だぞ、と。

それからもう一組聴き比べてもらっているのが「ツェルニー40番」のCDで、クリストフ・エツェンバツハの演奏と、日本のさる有名な先生の演奏。エツェンバツハの演奏はペダルも使ってますが、流れるように優雅で、こういう風に聴いたらツェルニーって全然悪い曲じゃないじゃない、というくらいステキなものです。でも、ピアノ科の学生にこのCDを聴かせても、自分が弾いてきたものとあまりに違うので何の曲だか分からないんですよ。それで、その次に有名な先生によるダカダカダカダカという演奏を聴くと「あつツェルニーだ」と分かる(笑)。

ここで申し上げたいのは、これらの演奏を聴いたあとでも、「きちんと弾けるようになってから、そのあとで表現」なんてことを信じてますか？ ということなんです。つまり、一旦しみ込んではまった身振りと、それはもう言葉の「なまり」が簡単には取れないのと同じだと思っただけです。さらに言うならば、「最初から表現」ではないのか、と。

岡田暁生(おかだ あけお)



1960年京都生まれ。大阪大学文学部博士課程単位取得退学。ミューンヘン大学およびフライブルク大学で音楽学を学ぶ(DAAD)。大阪大学文学部助手、神戸大学発達科学部助教授を経て、現在京都大学人文科学研究所助教授。文学博士。著書「オペラの運命」(中公新書、2001年)、サントリー学芸賞受賞。「バラの騎士の夢」(春秋社、1997年)「音は生きている」(共著、勁草書房、1991年)

音楽とは、大きな「身振り」を把握することであって、まず初めにこの曲がどういうジェスチャーのものなのかということをも身体で捉えなければ、その先何も始まらない。「きちんと」弾けるようになって、そのあとに身振りを加えたい演奏になる、というわけでは絶対にはいはずで。

ピアノという楽器は、本来どう弾いたっていいはず。

「本文で引用されている「正しく弾けば鼻で弾いてもかまわない」「自分自身の指づかいを探そう！」などの言葉は、普段のピアノレッスンではなかなか出会えない、興味深い言葉ですね。

どんな楽器にも言えることかもしれないですが、ピアノという楽器は、本来どう弾いたっていいはずなんです。例えばショパンやリストが出てきた時というのは、それまでの音楽家たちには唯然としたと思えます。こんな弾き方とんでもない、というようなことをやっていたわけですし。それからモンクの弾き方も、クラシックではまったくのタブーとされている奏法ですが、ジャ

ズの身振りに一番合ってるんですね。さうらにおかしい例としては、50年代のアメリカにはマイクをピアノの鍵盤の前に立ててそのマイクをよけながら弾くという、すさまじいロックンロール歌手がいたわけですが、彼はその体勢で歌も歌って、おまけに最後は足まで使って弾く(笑)。でも完全に音楽になっていないんです。要するに、奏法というのは「どんな音が出したいか」ということとすごく密接に結びついているはずだし、唯一の正しい弾き方なんてないんじゃないかと僕は思うんです。

また一方では、「どう弾いてもいい」と言っても、やはりある程度適切な弾き方というものはあると思うんですね。ただ忘れてはいけないことは、適切な弾き方とは、時代ごと、作曲家ごとにそれぞれ絶対違うはずだということ。例えば1800年頃のピアノは今のピアノとは全然違うものですが、当然弾き方も違ってくるはずなんです。だから一概に「手を丸めて弾きましょう」と言っても、今のスタインウェイを弾く場合には何でこんな弾き方が基本なのか分からないくらい弾きにくいと思うんですよ。でも、1800年頃のピアノだと、なるほどツェルニーが「手を丸めて」と言ったのがとてもよくわかる。それからもつと言え、ハイフィンガー奏法にも正しい文脈ってあると思うんですね。ショスタコーヴィチとかプロコフィエフにはこの奏法が一番向いていますよね。ただ、これでもってショパンを弾くのは間違っている、という話で、だからこうしてみると、おそらくピアノと付き合うということは、半分くらいは音楽史を学ぶことだと僕は思います。それから、聴き手としては、こんな身体の使い方だってできるという「発明する喜び」を発散する音楽をもつともつと聴かせてほしいと思いますね。ピアノを習っている子たちが将来全員ショパンを弾かなくて

はいけないわけではないし、将来ロックンローラーのピアニストになって、足を使って弾いてもいいわけですから。そういう芽をつぶさないためにも、身体のインベンションには目覚めてほしいとつくづく思います。

いい演奏とは、

「いい演奏」である。

——本の中では、日本のピアノ教育の特殊性にも触れられていますが、海外との顕著な違いにはどんなことがありますか？

僕が滞在していたのはドイツでだけれども、ドイツでは「下手だけれうまい」という、日本ではほとんど見られない現象にしばしば遭遇しました。間違ひ倒すんだだけと雄弁でやりたいことはわかる。

おそらく、彼らは音楽をちゃんと文章として理解できているんだと思うんですね。それこそテュルクの本（春秋社刊）「テュルク クラヴィーア教本」にも書いてありますが、「いい演奏」とはいい演奏である。だから息継ぎをちゃんとする。「。」のところでちゃんとマルを打つ、それから「？」だったらちゃんと抑揚をつける。彼らの演奏が下手なんだけれうまい、つまり伝わるというのは、要するにちゃんと文法を守っているからなんだと思うんですね。一方、我々は彼らほど文法を知りませんから、きつと句読点をめちやくちやにしていたりするんではないかね。

それから、音楽が文章であるということも考えると、例えば「粒をそろえて弾く」ということも、あんなナンセンスなことではないと僕は思うんですね。ドレミファソラシドというのは、調性音楽では必ずムラがあるんです。「シ」の音は上にいきたがるし、「ファ」の音は「ミ」に落ちたがるわけだし。それを全部等価で弾いてしまっ

たら、それは調性感のない音楽になってしまふ。つまり、インテンポで粒なんてそろえて弾いたりしたら何が起るかというところ……（抑揚なくお経のように読む）こうなるわけですよ。

——それでは、ピアノの先生にメッセージをお願ひします。

やはり先生自身がいい愛好家であつてほしいし、生徒に「鑑賞する」ことを教えてほしいと思いますね。30分の限られたレッスン時間では難しいことは僕もよく分かっているつもりですが、場合によっては少し演奏の映像を見せるとか、レッスンの曲で、同じ曲でもすごい人が弾いたらこんななステキになる、というのをCDで聴かせてあげるとか、もつと言えは先生自ら手本を示してあげるとか。つまり、聴く耳を育てなければ、あるいはいろいろな身体のイメージが把握できなければ、身体がついてくるはずないですからね。頼むからつめるのだけはヤメテ、と言いたい（笑）

——何かおすすすめ盤を教えてください。

絶対おすすすめなのは、ドイツ・グラモフォンから出ているエツシエンバッハの「ブルグミュラー25の練習曲」と「ツェルニー40番練習曲」です。それから、シューマンの「ユーグントアルバム」だったら、最近聴いた伊藤恵さんのものは素敵な演奏でした。ああいう超一流の人が弾くとどんなふうになるのか、というのを是非聴いてみてほしい。その他にも、ホロヴィッツやミケランジェリのCDも手に入るし、フランソワの演奏だって、すべてレーザードイスで見ることが出来ます。彼らがどんな格好で弾いていたかというのは、やはり一見に値すると思います。

（取材・文 LPO編集室）

お母さんの心と向きあう

◆わが子に過大な期待をかける。

親であれば誰しも、わが子の将来に期待をかけます。それは、わが子に対する愛情の証でもあります。

でも、たとえ愛情から出たものであつても、その期待が過剰で、わが子を押し潰すほどのものであつたら大問題です。

昔のお母さんも、子どもを愛していましたが、いまのお母さんと、愛情の度合いにおいて、少しもかわりません。

でも、昔のお母さんは、些細なことには気にしないで、鷹揚に育てていました。乱暴なたとえですが、子どもを羊にたとえれば、大きくて広い柵の中で、放し飼ひにして育てました。

子羊が柵から飛び出して、迷子になつてもどれなくなつたり、命の危険にさらされない限り、お母さんは遠くから見守つていただけです。

昔のお母さんは、そんなふうにして、たくさん子どもを育てました。私の友人には、十人きょうだいの人もいます。

いまのお母さんは、少ない子どもを、大切に大切に育てておられます。

タカヒロくんのお母さんも、細やかな心配りをつねに忘れず、溢れるような愛情を注いでおられます。

先生がタカヒロくんの変化に気がついたのは、年中さんの秋頃でした。

元気で明るいタカヒロくんが、レッスンで軽々注意しただけで、瞳に涙をたたえはじめたのです。「できなくていい

のよ」などと声をかけようものなら、ポロポロと涙がこぼれ落ちます。

リトミックのレッスンでも、あまりうまくできないことがあつたり、お友だちよりちよつと遅れたりするだけで、そのたびに体を震わせて泣き出します。

先生は、すぐにわかりました。「タカヒロくんは、小学校受験をなさいますね？」

「はい。先々、受験で何度も苦労するのは可哀相なので、何もわからない今のうち、できるだけレベルの高い学校に入れてあげたいと思つて……。狙つている付属小学校は、東大合格率がとても高いんです。」

「受験塾にお通ひですね？」

「はい。もつともつとがんばらないといまは塾で落ちこぼれているんです！」

お母さんは、「何もわからない今のうち」とおつしやいましたが、タカヒロくんは今、わり過ぎるほどわかつています。そして、自信を失い、不安に襲われ、深く心を傷つけられています。

でも、遠い将来の東大合格のために、わが子を押し潰していることに、お母さんはまったく気がついておられません。

わが子にかける期待の半分を、お母さんは、自分自身のこれからの人生にかけたいたきたい、と私は思います。

お子さんはお母さんの背中を見て育ちますから、お子さんに過大な期待をかけるより、お母さんは生き方のお手本を、しっかりと見せていたいただきたいのです。

11月の新刊&おすすめ本

おすすめの音楽書

recommend!!



演奏：丹内真弓、伊賀あゆみ、田中瑠美、戸田 愛
※本商品はお取寄せ対応となる場合がございます。予めご了承下さい。

●ピティナ・ピアノステップ For Your Stages ポピュラー課題曲集CD

1997年にスタートして以来、毎週末日本のどこかで行われている「ピティナ・ピアノステップ」。今年も全国およそ240の地区でさまざまなステップが開催されています。

この度、「ピティナ・ピアノステップ」のポピュラー課題曲全122曲のうち、代表的な57曲を取り上げたCDが発売されました。リズムやノリを正しく感じてこそ、曲が生きてくるポピュラー・ミュージック。ステップを活用されている先生はもちろん、そうでない先生もぜひその「ノリ」を感じてみて下さいね。(佐土原知子 監修 東音企画 3000円 好評発売中)

●音楽療法情報誌 **the ミュージックセラピー 02**
音楽療法にまつわる情報がギッシリ詰まった一冊。【注目記事】 噂の国家資格／五嶋みどり&及川浩治レクチャーコンサート／クライブ・ロビンズ博士インタビュー 日本人の音と音楽療法の接点／ボディパーカッション／ほか。(音友 1500円 発売中)
●音大・音高受験情報誌 **別冊/ハンス・レポート**
音大受験用教材・情報誌の発行を手がける会社による、音大・音高受験専門情報誌。専攻別学習ガイド、学校別専攻一覧、楽譜の選び方など、受験必須の情報が満載！(ハンス・アラ・ミュージック 1200円 発売中)

* 教本・曲集 *

●全音ピアノライブラリー J.S.バッハ=ケンプ/ ピアノのための10の編曲

「主よ、人の望みの喜びよ」「シチリアー」等の有名な作品をウィルヘルム・ケンプがピアノ用に編曲。(全音 1800円 11/下)

●全音ピアノピース No.497 **B.ガルツィ 作曲** ソナタ 第1番 [エレナ] 500円

●全音ピアノピース No.498 **M.ラヴェル 作曲** 亡き女王のためのバヴァーヌ 400円

●全音ピアノピース No.499 **W.ギロック 作曲** ト長調のエチュード[そけいへり]400円

●全音ピアノピース No.500 **I.アルベニス 作曲** アストゥリアス 500円

(関 孝弘 校訂/全音 11/下)

●リズム・マスター/ピアノ連弾カーニバル

主にメロディーを弾くパートは初心者向け、セコンドは中級以上の弾きごたえのある本格的ポピュラー・リズム伴奏スタイル！(橋本晃一 編/ドレミ 1000円 11/上)

●3人でピアノアンサンブル すてきに6手連弾①・② 初級～中級レベル。【曲目】小川の水車／ちようちよう／フィンランドの騎兵隊の行進曲／とけいのうた／どんぐりころころ／エーデルワイス／他。(共同 各1500円 11/下)

●小さな手と鍵盤のための こどもピアノポップス CM篇 レッスンの合間のお楽しみ曲としても使える簡単アレンジ。！【曲目】かゆいところはどこ／蚊に効く蚊キクケコ／どキレイダーのテーマ／チェッチェコロ／他。(鈴木豊乃 編曲/ガフイ 1200円 11/中)

●G.ガーシュウィン ピアノ作品集

ガーシュウィンのスタイルに忠実であることを前提として、ピアノ作品7曲の他、ピアノロール(当時の自動演奏ピアノ用のロール)に残した「ボーギーとベス」からの7曲を、コンサート用としてメドレーに編曲。(江口 玲 編曲/全音 1900円 11/下)

●新・ガーシュウィン・ピアノ名曲選

【掲載予定曲】スワンニー／アイ・ガット・リズム／私の彼氏、ドゥー・ドゥー・ドゥー／ストライク・アップ・ザ・バンド！／他。(デプロ 1000円 11/下)

●バイエル程度で楽しめる ジャズ・ピアノ大全集

スタンダードを中心に一挙50曲を収載。【曲目】A列車で行こう／枯葉／オール・オブ・ミー／星に願いを／フライ・ミー・トゥー・ザ・ムーン／他。(ドレミ 2000円 11/下)

●ピアノ・ライブラリー 映画音楽大全集①・② 懐かしの名曲から最新曲までを2分冊に。(松山祐士 編/ドレミ 各2500円 11/下)

●婚姻演奏CD付 ウェディングで流れる/ラウンジ・ピアノ曲集

中級以上対象の弾きごたえあるアレンジ。【曲目】I LOVE YOU/Forever Love/長い間/SAY YES/マイ・ウェイ/愛の讃歌/「椿姫」より乾杯の歌/他。(橋本晃一 編/ドレミ 2200円 11/上)

●一流レストランで奏でる

セレブレーションソング・ピアノ曲集

おしゃれで豪華なアレンジ。【曲目】世界に一つだけの花/さくら[独唱]/童神/婚礼の合唱/結婚行進曲(メンデルスゾーン)/クリスマス・メドレー/他。(ドレミ 1500円 11/上)

* ヒット曲&TVテーマ曲 *

●ピアノアルバム 「冬のソナタ」(ヤマハ 500円 発売中)

●ピアノ&コーラスピース アメージング・グレース ドラマ「白い巨塔」テーマ。(kmp 500円 11/中)

●ピアノアルバム NHK連続テレビ小説「てるてる家族」主題歌 ブルー・スカイ・ブルー (ヤマハ 500円 11/中)

●ピアノ&コーラスピース 童神(ヤマトグチ)/夏川りみ (kmp 500円 11/中)

●みんなで楽しく もっとアニメで連弾

「アンパンマン」「ドラえもん」「明日のナージャ」他全11曲を初級～中級のアレンジで。(辻田幸徳 編曲/ガフイ 1500円 11/下)

●やさしく弾けるピアノソロ おかあさんといっしょ 大全集 充実の448ページ！(kmp 3500円 11/中)

●月刊Piano 2003年12月号増刊 ピアノで弾く ザ★ヒット2003 まるごと一冊今年のヒット曲！森山直太郎、松谷卓のインタビューも。(ヤマハ 933円 11/中)

●ピアノソロ 「女子十二楽坊」Beautiful Energy～ 「奇跡」Selection ついに楽譜登場！(シンコー 2400円 12/上)

●CD付 8冊でやさしい 癒しのピアノ名曲50選 ピアノソロ

【曲目】TAKUMI～匠/COTO(「Dr. コト～診療所」より)/アメージング・グレース/オノノリー・タイム(enyra)/他。(ドレミ 2500円 11/下)

※発売前の商品に関しては予定価格となっておりますので、発売後の価格が若干異なる場合がございます。また、品切の場合は何卒ご容赦下さいませ。